

災害復旧事業によせて

# 国道108号道路災害 復旧事業完成感謝の集い



宮城県大崎市長  
伊藤 康志

この度、全国防災協会機関紙へ寄稿の機会を得ましたことは大変ありがたく、厚くお礼申し上げます。

大崎市は、平成18年3月31日、古川市・松山町・三本木町・鹿島台町・岩出山町・鳴子町・田尻町の1市6町が合併して誕生しました。

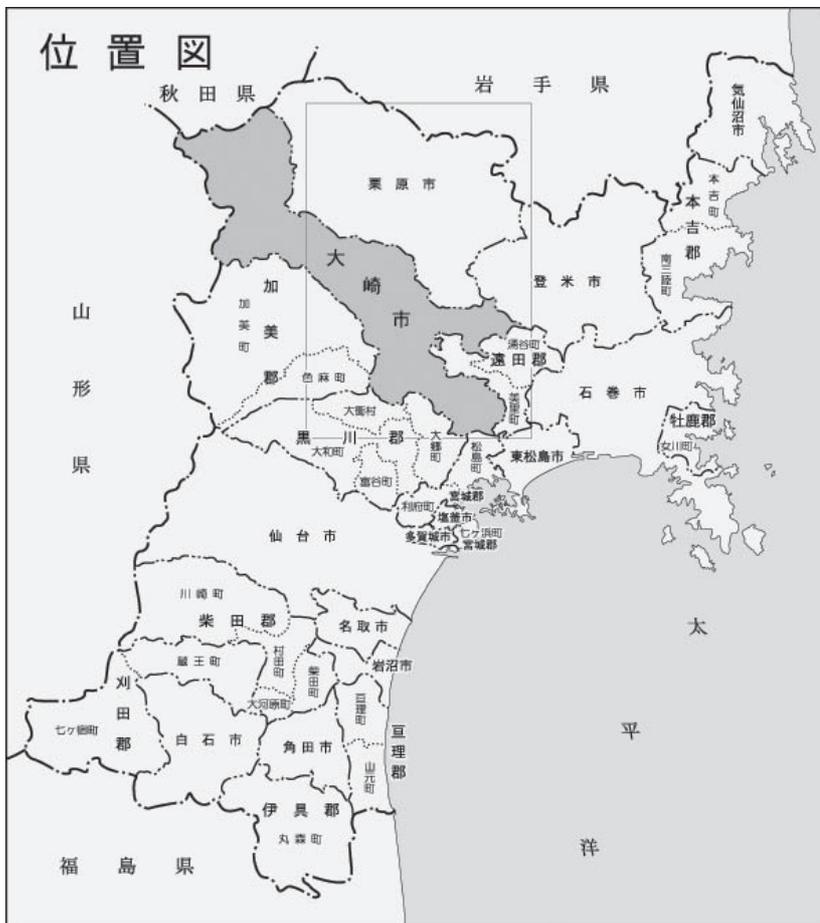
全国一の泉質を誇る鳴子温泉郷の鳴子町、江戸時代の学問所・有備館を有する岩出山町、保健福祉の先進地三本木町、醸造文化と歴史のまち松山町、災害に強いまちづくりの鹿島台町、渡り鳥のオアシス・蕪栗沼を有する田尻町、そして高速交通網で結ばれ、ササニシキ・ひとめぼれ誕生の地古川市といった、観光や歴史・旧跡、多様で個性ある市、町が合併した市です。

本市は、宮城県の北西部に位置し、西は山形・秋田両県に接しており、東西に約80kmの距離に亘り、奥羽山脈から江合川と鳴瀬川の豊かな流れによって形成された広大で肥沃な平野「大崎耕土」を有し、四季折々の食材と天然資源、そして、地域文化の宝庫であります。

平成19年2月17日に、鳴子温泉大畑地内で発生した国道108号土砂崩落事故においては、国土交通省並びに宮城県、関係機関が連携し、全面通行止めの解除に向けて

英知と技術を結集いただき、速やかな復旧に尽力いただきました。

宮城県と秋田県をつなぐ国道108号には、予てから懸案の花淵山バイパス整備事業があり、早期完成が熱望されておりましたが、平成15年5月に発生した三陸南地震により、地滑りの兆候が見られたことから工事が中断されておりました。





蔭様で昨年12月初めに災害復旧工事が完了し、現道での通行が可能となりました。

現道の全面通行を前にして、これまでご支援・ご協力をいただいた多くの皆様へ感謝の意を表したいとの思いから、国道108号全面開通感謝の集いが鬼首地域づくり委員会の呼びかけで、11月29日、平日の午後6時に開催され200人を超える多くの皆様の参加をいただきました。

不便な生活を送りながら、必死に練習を重ね、東北お囃子大会で見事3位入賞を果たした、「おに之國・心鼓(しんこ)会」の勇壮な太鼓で幕を開け、全面通行止めを体験

しての意見発表や工事経過報告などを交え、有意義な時間を過ごすことができました。

意見発表の中には、「崩落事故で45日間、道が閉ざされ、全ての交流が途絶え、地区民全員が必死で踏ん張り、凌いだ日々からもうすぐ8カ月経過しようとしています。4月に仮設道路が開通し、マイカーで鳴子の地に着いたときは感謝、感動でした」といった不自由な生活を経験した方でないと言えない実感のこもった内容でありました。

感謝の集いで意見発表された、鳴子中学校・3年2組、高橋竜馬君(鬼首在住)の作文をご紹介します。



土砂崩落現場

そんな中で今回の土砂崩落事故が発生し、生活の根幹を成す国道108号が全面通行止めによって、鳴子温泉鬼首地域の400世帯を超える住民は、仮設道路が開通する4月3日までの45日間、言葉に言い尽くせないほどの不自由な生活と不安な日々を送りました。

その間、住民一人ひとりの助け合いは勿論のこと、県境を越えた秋田・山形県の皆様の温かいご支援により無事に生活することができました。

その後、国土交通省や宮城県の尽力により、お



感謝の集い

## 「この一年を振り返って」



鳴子中学校  
3年2組  
高橋 竜馬 君

『まだ、1年を振り返るには早い気がしますが、私にとって今年は、生涯忘れることのできない1年となりました。それというのもとても大きな出来事が2つあったからです。

1つは、この鳴子地区からなんと8年ぶりという、我が野球部の県大会出場です。この日を夢に、日々汗を流してきたのですからとても嬉しかったです。しかも、あのマンモス校古中、新人戦で全く歯が立たずコールドで負けた相手に見事リベンジを果たし、しかも最終回サヨナラ勝ちという劇的な勝利でした。夢のような信じられないような、とにかく大感激でした。

そしてもう1つは、残念ながら決して良い事ではないのですが、忘れられない2月17日の土砂崩落による国道108号の通行止めです。ちょうど前日にスノーボードをしに、川渡と鳴子の2人の友達が我が家に泊まりに来ていたのですが、今日の午前中に帰らないともう帰れなくなるという知らせを受け、2人の友達は慌てて帰って行きました。友達が帰った我が家は勿論、鬼首に住むすべての人々が一夜にして陸の孤島として取り残されてしまったのです。『学校は、どうするのだろうか?』『病気をしたらどうなるのだろうか?』『間もなく受験をひかえた3年生はどうするの?』など不安は広がるばかりでした。でも翌々日には、知事さんや市長さん、工事の皆さんのお陰で、大畑までスクールバスで行き、一旦バスを降り、あの階段を降り、そして、その下で待機しているバスに乗るという方法で通学することができました。私達中学生はともかく、お年寄りや病気の方は、本当に長くつらい階段だったと思います。およそ45日間に及ぶ通行止めの間、私達は、登下校、あの階段を昇り降りしたのです。今となってはとても遠い昔の出来事のような不思議な感じがします。今

回の崩落事故は、私達に道路の大切さと、多くの人々の支えがあって安全に学校に通うことができるんだという事を思い知らされましたし、また大きな教訓として今後に生かしていこうと思います。できるならば、このような思いを後輩達が行う事のないよういち早く、より安全な、花瀨山バイパス道路が完成できますよう心からお願いいたします。』

今回の土砂崩落事故に際し、国土交通省、宮城県並びに多くの皆様のご協力により安心して通行できるようになりましたことに衷心より厚く感謝申し上げます。



シャトルバスの運行



被災直後の仮通路



整備された仮設通路